

●1日3回シャワーするのは漢方薬を飲むのと同じくらい大切です。寝汗かいてるので朝シャワー、お昼間外出から帰ってシャワー、寝る前シャワー。必ず3回行ってください。未来が変わります。痒みが変わります。かゆいかゆいと私の前で毎週同じことを言う方がおられますが、かゆみ止まりません。しっかりシャワーをしてスキンケアを確実にすることによって、少しずつですが皮膚状況改善して変わってきます。やらなければならないことたくさんあると思います。指導書のバックナンバーを読みよく理解し、その状況の下で頑張ってください。漢方薬飲むだけでは絶対に治りません。

●寒くなってきましたが、身体に熱がこもらないように工夫してください。下着を暖かいハイテクのものにして、着込まない。服装も毛などの素材をさける。ハイネックを着ると、暖かいですが、魔法瓶のように熱がこもります。風呂上り、布団へ直行するとこれまた、魔法瓶のようになり、痒くて眠れない夜になります。色んな、工夫が必要です

●ホームページの指導書バックナンバーをご覧になるには以下のID（ユーザ名）パスワードが必要となります。

ID（ユーザー名）：torroad

パスワード：0783818727

経口免疫療法とは？

経口免疫療法とは、経口負荷試験によって症状が誘発される量を調べ、その量を基準にして、専門の医師の管理のもとで段階的に食べる量を増やしながら、最終的に耐性を獲得させることをめざす取り組みです。研究段階の治療法であり、ご家庭で安易に行うものではありません。

これまで耐性獲得を待つしかなかった、あるいは、耐性獲得をあきらめざるを得なかった重い食物アレルギー患者さんたちにとって、この経口免疫療法は画期的な変化であり、多くの患者さんがその効果に期待しています。

しかし、メディアなどでも取り上げられる情報は“効果”を強調するあまり、“副反応”が置き去りにされている傾向があります。経口免疫療法には、アナフィラキシーショックを含めた症状を誘発する危険性や、思いもよらない副作用があらわれる危険性があります。その中で日々アレルゲンを食べ続けることは、患者さんとその家族にとって大きな肉体的・精神的ストレスとなってしまいます。

そもそも、食物アレルギーとはなんでしょう？

私たちが持っている免疫という仕組みは、本来は有害なウィルスや細菌から身体を守るために働いています。しかし、免疫機能の未熟さや消化吸収機能が未発達であるといった理由から、無害であるはずの食べ物も異物として認識してしまう場合があります。免疫機能が食べ物を異物として認識してしまうと、身体に様々な症状が表れます。代表的な症状は、アナフィラキシーやじんましん、皮膚炎です。こうして、身体を守るはずの免疫が無害な食べ物についても反応してしまうようになった状態を「食物アレルギー」といいます。

当クリニックでは独自の漢方薬によりアレルギーの値を下げる治療を行っています。しっかり漢方薬を飲みIgEが下がったことを確認した上で、アレルギーのある食物を少しずつ食べるようにしましょう。食物に限らず、IgEが高い状態で、アレルゲンに接触することは好ましくありません。